

特集

若年脳卒中患者のリハビリテーション

脳 卒中では高齢者の患者数が圧倒的に多いため、高齢者の治療が注目される傾向にあります。数少ない若年者の脳卒中にももっと関心が払われるべきと考えます。若年者では、介護保険サービスが利用できない、仕事をどうする、学校はどうする、これからの何十年間をどうすればいい、といった問題・課題が山積しています。

今回の特集では、とくに 40 歳未満の脳卒中患者を中心として、その原因疾患からリハビリテーション、社会復帰に至るまでの若年者に特徴的な課題について論じていただきました。

若年性脳卒中の原因と治療 小林慎弥氏ら……………1093

若年者の脳卒中の割合は全脳卒中の 10% にも満たないと考えられるが、診断や治療が特殊であり、専門的な対応が必要である。また、長期的な予後を見据えた医療や社会的な支援体制が重要となる。若年者に特徴的な代表的疾患について、その病態や原因、治療、予後などを詳しく解説いただいた。

機能回復と支援のポイント 太田正氏……………1101

リハビリテーション科がかかわる若年脳卒中者は決して少なくない。長期間に起こる歩容の変化と活動性の向上を見通した装具の提案を行うことは重要であり、急性期から回復期の状態だけをみて安易な装具を処方することへの警鐘を鳴らしている。長期回復に必要な 3 条件として、①重度障害に伴う重度廃用への対処、②参加レベルの具体的目標と家族の支援、③土台としての体力向上を挙げ、症例を提示しながら持論を展開された。

ニュース	肢体不自由者に外出情報、NPO が冊子―バリアフリー状況紹介……………1099
	重症の心身障害児放課後預かります―県内 NPO 初のデイサービス本格運営へ（大津）……………1110
	重度障害者支援ソフト開発、横田さん（島大総合理工学研究科 2 年）最優秀賞
	―視線入力装置活用、試作版公開し好評（福祉機器コンテスト）……………1110
	優先調達 151 億円に一障害者へ発注、順調増加（2014 年度）……………1128
	東京五輪・パラリンピック見据え、スポーツ庁発足……………1129
	重度障害の乳幼児をケア―旧小学校に事業所オープン（杉並）……………1138
	全盲の棋士も対局―福祉囲碁東京大会……………1145
	障害者が語る戦争体験―日本障害者協議会（JD）、戦後 70 年でシンポ……………1145
	簡保の封筒に点字を―郵貯機構にあっせん（総務省）……………1155

女性の IADL と育児 稲澤明香氏ら.....1111

著者らの施設の若年女性脳卒中患者では、機能訓練以外に IADL や就労、社会参加に関する訓練・支援を実施する場合が多かった。また、とくに妊娠・分娩時に発症した女性では、育児という役割も考えていかなければならない。若年者ならではの長期にわたる機能・能力の向上をフォローするとともに、児の成長に合わせた育児や家事役割の変化についても評価を行い、支援を継続することが重要である。

復学 深澤聡子氏ら.....1117

復学支援は発症直後より、現在の学校状況の聴取などから開始し、家族の障害理解にも配慮しながら進めていく。必ずしも在籍していた学校への復学がベストとは言えず種々の選択があるが、患者と家族が自らの意志で選択したと実感しながら前進できるように支援することが重要である。医療者の理想論を押し付けることなく、個々のケースに最適な支援を行うことが最良の復学に繋がると述べている。

就労と社会参加 大塚文氏ら.....1123

若年者に特徴的な話ではないが、必要な患者には急性期から復職や新規就労を念頭においた介入が求められる。どのような情報を得るべきか、会社との相談はどうすべきかなど詳しく解説いただいた。また、一般就労以外の社会参加についても触れていただいた。とくに若年脳卒中患者においては自宅退院がゴールではなく、社会生活の復権まで考慮されるべきだが、現在の急性期・回復期のリハビリテーションでは軽視される傾向にないだろうか。

「ノーマライゼーション 障害者の福祉」10月号・特集目次.....1155

公認心理師法が成立—所管は文部科学省・厚生労働省に.....1170

国連への報告書で原案—政府、障害者権利条約で初.....1170

お知らせ 兵庫医科大学リハビリテーション医学教室主催セミナー.....1109

日本リハビリテーション連携科学学会第17回大会.....1129

認知症予防の理論と実際.....1129

第5回日本がんリハビリテーション研究会.....1144

第7回障害者自動車運転研究会.....1144

第43回日本リハビリテーション工学協会車いす SIG 講習会 in 大東.....1171